

佐賀県宗務所 新所長
塩田町 学成院住職
小寺 大誠



『日蓮宗佐賀県宗務所、新所長紹介』

去る九月二十日に遷化された、小城郡妙
蓮寺住職、辻智彰前宗務所長の後任として
藤津郡塩田町学成院住職 小寺大誠上人が選
ばれました。大誠新所長のご紹介を申し上げます。

昭和十六年六月一日、佐賀県護法運動事務局に
任命され、昭和五十一年四月一日、佐賀県
青年会々長に就任、昭和五十一年六月、宗
務所協議員に就任四期務め、昭和六十二年
四月十日、佐賀県社教会々長に就任、三期
務められ、佐賀県宗政に多大な貢献をされ
てこられました。

また、法華經精神を弘むべく保育園をは
じめ社会福祉事業に着手されました。

昭和四十四年四月一日、私立たちばな保
育園を設立、園長に就任。昭和四十八年四
月一日、公認を受け社会福祉法人たちばな
保育園々長に就任。就任後十年間園長を務
められました。昭和五十八年四月一日、社
会福祉法人たちばな学園（知的障害者更正
施設）を設立し、園長に就任されました。

昭和十六年十一月三日生れ、現在満五十
七歳。昭和三十九年三月、立正大学仏教学
部宗学科を卒業、昭和三十九年第二期信行
道場を終了、昭和五十五年二月十日、日蓮
宗大荒行堂第参行成満。昭和四十一年六月
十八日、学成院住職となり、現在に至つて
おられます。新所長就任に至るまでの間に
は、様々な役職を歴任されました。昭和四

来る平成十四年には、立教開宗七五〇年
という宗門において大事な年を迎えるにあ
たり、小寺大誠新宗務所長は、「宗祖」に返
り「立正精神」をもつて、この慶事に取り
組んで参りたいと語られています。

慈眼

第12号

発行所
藤津郡塩田町大字
五町田甲1307 学成院内
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者 小寺 大誠
印刷所 中野印刷所

遷化

日蓮宗佐賀県宗務所前宗務所長
小城郡 妙蓮寺住職 辻 智彰



去る九月二十日、前宗務所長 辻 智彰
上人が志中ばにして、病の為にご遷化なさ
れました。世寿六十六歳でした。九月二十一
日、午後一時より密葬が當まれ、十月二
十四日、午前十一時より本山 松尾山光勝寺
貫首田中日学猊下導師の下、本葬が執り行
われました。

上人は、宗務所長就任の前には長い間、
佐賀県護法担当事務長を務められ、佐賀県
の宗政に大いなる貢献と実績を残されました。
又その他、昭和四十六年六月五日、日
蓮宗新聞通信員に任命、昭和四十九年四月、
佐賀県青年会々長に就任、昭和五十一年五
月、宗務所協議員に就任、平成七年五月、
布教師会々長に就任、平成七年六月、全国
布教師会連合会常任理事に就任。さらには、
昭和五十年七月、佐賀県雅楽部初代樂長に
就任するなど宗門の重要な役職を歴任され
ました。

上人の宗門に対する絶大なる貢献を称
えつつ、上人の増円妙道を心よりお祈り申
し上げる次第です。

まやしつぐろ

（かいづぶり）

最近また理解ができるな
い宗教団体が様々な問題
を起こしている。教祖を
絶対的な存在とし、世間
の常識が通じない「定説」
とか「天の声」など教祖
だけが啓示を受けて指示
をし、それを信じて思
込み行動をする。その結
果として社会の人々とい
ういろんな争いや軋轢を生
じさせてマスコミの恰好を生
む材料となっている。

信仰は麻薬と言われる
ことがあるが、良しも悪
しきも信じ込んでしまいます

事、疑う事もなく盲目的に
信じてしまう「盲信」
である。

お釈迦様は盲信を戒め
自らの心で考える事が必
要といわれています、頭
を取つていけません。



立教開宗七百五十周年
慶讃シンボルマーク

【特集】『日蓮大聖人のご生涯』

前号より引き続き日蓮大聖人の
ご生涯をたどつて参ります。

《前号まで》

一二二二二（貞応元）年二月十六日、現在の千葉県小湊にお生まれになった日蓮大聖人は、十二歳の五月・清澄寺に入られました。「日本一の智者と為したまえ」との誓いをたてられ、道善房のもとで十六歳で出家されました。

お釈迦様のご本意を知り、一切衆生の救済を自らに課した大聖人は、探求を続けられ、五年の間に清澄において学びうるものは悉く学び終えられたのでした。

《遊学・鎌倉へ》

清澄寺は房州地方では屈指の大寺であったものの、向學心に燃える日蓮大聖人にとっては到底満足しうるところではありませんでした。当時の政治・文化の中心地から離れた房州清澄では、人材や書籍などあらゆる面において学問研究の充実を期することは不可能に近く、更なる修学のため諸国諸山遊学へと旅立たれています。

一二三三八（暦仁元）年より北条執権政治の中心地・鎌倉へと遊学されました。

念仏・禪を中心とした信仰仏教が生き生きと鼓動する鎌倉の地にとどまり、經論を紐解き、師を尋ね、渴者の如く法を求めて学習を深めて行かれたのでした。四年間にわたる鎌倉遊学を終えた一二四二年、「安房国清澄山住人蓮長撰」と署名



遊学　^{えいざん}　山　^{やま}　^{ゆうがく}　^{ざん}　^{いざん}

清澄寺へ提出された報告書

大聖人の最初の著述で、日蓮

あるとともに「蓮長」の名で書かれた唯一の著書であります。（幼名の善日麿より、出家に伴い十六歳の時より是聖房蓮長と改められる）

《遊学・京畿へ》

二十一歳になられた大聖人は「お釈迦様のご本意を知る」という大志を抱き、伝統的文化と仏教の中心である京畿を目指して遊学の途につかれました。比叡山・園城寺・高野山等諸宗諸山を回り、清澄や鎌倉では学び得なかつた仏教の奥義を修学させたのでした。中でも比叡山はもつとも充実した勉学の地で、横川を拠点に比叡山での修学に勤められました。「お釈迦様のご本意を

知る」それは単なる知識の習得ではなく、一切衆生を導き、そして救済する無上の教えに生きることを意味していました。そしてついに最勝の法を覚知されたのでした。それは純粹な法華経信仰の世界に生きることと、法華経信仰に「お釈迦様のご本意」を確信されたのでした。

お釈迦様の真実を覺知された日蓮聖人の目には、念佛・禪・真言・律等の各宗が充満した当時の社会は「一同に誇法」と映り、後に國を諫め、諸宗批判へと進まれたのもこのような現状を憂えてのことでした。

自然災害に加えて、社会・政治の変動による価値観の変遷、民衆は飢え、病み、混沌とした今日こそ法華経（正法）への帰依の必然性を説かなければならぬ。これまでひたむきに研鑽の日々を重ねてきた求道者・日蓮大聖人は、お釈迦様のご本意・法華経の弘通者として新たな旅立ちを心に誓い、故郷十一年間に渡る京畿への遊学を終え、故郷房州へと歩みを進められたのでした。『衆流あつまりて大海となる。微塵つもり須弥山となれり。日蓮が法華経を信じ始めしは日本国には一滯一微塵のごとし。法華経を二人・三人・十人百万億人唱え伝うるほどならば、妙覺の須弥山ともなり、大涅槃の大海上なるべし。仏になる道は此よりほかにもとむる事なけれ。』

〔撰時抄〕

技術本位

佐賀の老舗

信用本位

辻の堂の仏だんや
(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀

木下株式会社
平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL
木下株式会社

草苑

佐賀市兵庫町藤ノ木1115
(0952) 30-4040

佐賀市本庄町大字本庄951
(0952) 25-1255

じ げ ん

万年の外未来までもながるべし。日本國の
一切衆生の盲目をひらける功德あり。

『報恩鈔』

今、日本社会は疲れているようです。いじめ、自殺、家庭内暴力、離婚、学級崩壊、中毒、カルト教団、公害……さまざまに不幸な兆候が社会の表面にあらわれてきています。

戦後、所得倍増政策に代表されるように、経済的な豊かさを目指し、一応物質的欲望を満たすことはできたようですが、しかし精神、心の荒廃と疲労という後遺症が残ったのも事実です。

原因の一つとして知恩報恩感謝の念が希薄になってしまったことをあげられないでしょうか。親子の断絶、教師と生徒の対立、政治家不信、まさに仏教でいうお釈迦さまの教えはあっても、それを実践することがなく末法という時代を露呈しているようです。今こそお釈迦さま、日蓮大聖人の教えを実践する必要があります。

日蓮大聖人は報恩ということを非常に重んじられました。そしてその対象は、まず肉体をさすけて頂いた父母、精神を教育してもらつた師匠、身心を保護してもらつた国等の主師親三徳です。そして全ての関連において我々の身心を育て教えて教え護

る一切衆生をあげ、眞の報恩の為最も重要なものとして以上のことを兼ね具えている久遠実成の本師釈迦牟尼仏の恩徳を説いておられます。

たとえば親の恩。父親がサラリーマンであれば、会社勤めで家族を養ってくれたことが父の恩のひとつです。でもそれだけではありません。父親を働かせてくれた会社にも間接的に恩を受けてます。そして、その会社の取引先、消費者……

：一切衆生の恩、ひいては久遠の本師釈尊の恩になるのです。

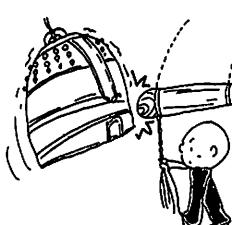
『報恩鈔』は建治一年初夏、大聖人五十五歳身延入山第三年目、清澄の旧師道善坊の死去の報に、昔日の御師に想いを巡らし師恩報恩感謝、追善の為弟子日向人を使として、清澄の兄弟子、淨顕坊、義淨坊の両名に送り、旧師の墓前で読誦せしめられました。

この文章は、久遠の本師釈尊に従つて南無妙法蓮華經を自分の使命として受け止め、生きとし生きるものすべてを救おうという確信より生まれました。我々は今一度この言葉をかみしめたいものです。

Q 毎年大晦日にはお寺で百八つの除夜の鐘をついて新年を迎えますが、この行事の意味は何でしょうか。

A 年末、夜の静けさをやぶつてつき鳴りひれる鐘の音は、一年の終りをつげると共に、新しい年の幕開けをつげる声として私たちに親しまれています。除夜の鐘は百八回つくところから、百八の鐘ともいわれます。百八回つくのは、私たちの平穏の心を乱す煩惱（私たちの身体や心を悩ませ、かき乱し、煩らわせ、惑わし汚す心のはたらき）をいいます。私たちが苦しんだり、悩んだりする原因は、私たち自身がもつて

いる欲（我欲）、私たちが何とか手に入れたい、或はいつまでも手にしたいといとうような目的を達成しようとする心のはたらき）の数、百八にちなんで、それらを洗い清めて新年を迎えるためにつき鳴らすといわれます。



「お寺へのQ&A」

創業明治22年

旅館

あけぼの



手を合わせるこころを大切に・・・
山木化具
佐賀市呉服元町10-12 23-4308
TEL 0952-840-0824

殿机具諸者

- ・寺院用具一式
- ・登高器具
- ・仏壇
- ・種造
- ・前修人
- ・卓復蓋
- ・金弥
- ・物壇
- ・富経
- ・宝鏡
- ・座壇
- ・天幕
- ・須弥
- ・神政用具
- ・佛像開刻
- ・其の他

佐賀市中ノ小路3-10 TEL (0952) 24-8181

何故 世紀末

来年は西暦二千年です、又西暦二千一年は二十一世紀の始まりということです、一言申し上げます。

西暦二千年は特別な年?として、様々な祝う行事、まつり、イベントなどが各地で計画、予定されているようです。初日の出、観覧車、特別ツアーや電光掲示板、ホテルの予約・・・。観光業界も千年に一度の追い風と乗り遅れないよう懸命のようです。更にはコンピューターの二千年問題等と騒ぎはとどまるところを知らないようです。

又、もうすぐ二十世紀も終わるといふので、世の中世紀末と何かと騒がしいようですが、果たして世紀末、西暦とは一体どういうことでありましょうか。

世紀という時代区分は西暦より成り立っています。その為紀元はキリスト誕生の年を無理に元年として計算しています。つまり世紀も西暦もキリスト教関係、そして西洋の暦でしかなかつたのです。

俗に上等舶來という言葉を耳にしますが昔より日本人は海外のもの新しい物はたいがい優れています。取り入れてきたのでしょうか。特に明治時代にはキリスト教の影響を受けた西洋の文化が大量に入ってきて、そしてそれは太平洋戦争敗戦で決定的

となつたようです。例えば商売人を始め多くの人はケイの日(クリスマス)、チョコレートの日(バレンタインデー)等横文字を使う行事には一生懸命のようですが、東洋の花祭り、花入り十五夜はともかくとして、四月八日の花祭(お釈迦様の誕生日)十二月八日の成道会(お釈迦様が悟りを得られた日)にいたっては一部の人を除いて完全に無視されてしまつたような気がします。

ほかにも日本人の象徴である天皇陛下でさえ、外国の要人と会う等正式の場ではネクタイを締め洋服を着ておられるようです。我々も洋服を着ることがほとんどになつてしましました。着物というものがありながら・・・暦は日本にも皇紀という年号があります。今年は二千六百五十九年です。仏教国では仏暦(釈尊誕生を元年)を使い、又、イスラム教圏ではマホメット聖遷(ヘジラ)を紀元元年としているようです。

まあその程度だつたら時代の流れとして目くじらをたてることではないのかも知れません。

というのは、冬だというのに昔のように寒くなく、温暖化は確実に進行しているようです。原因の一つにクーラー等文明機の使い過ぎがあげられます。昔ながらの藁葺き、障子、泥壁、ふすま等自然と共生、調和し

てきたものから、特に西洋の影響を受けたか、自然を遮断して自己の快適の為自然を無視、あるいは敵対、犠牲にした生活の為ではないでしょ

うか。

そしてその西洋の文化圏に多大なる影響を及ぼしたのが、砂漠の宗教であり、人間中心に自然を敵対征服しようとした侵略的な思想を持つキリスト教だったことは否定できないでしょう。

良いものを取り入れ活かすことは大切なことだと思います。西洋、西暦のお蔭で今の生活を享受でき、又世界のことは理解しやすくなりました。しかし西暦を唯一絶対のように考え、昔からの良い生活習慣等無視し、余りに西洋かぶれして世紀末と浮足だつのはどうでしょうか。

和合、自然との調和を説き、そして唯我一人のみ能く救護をなすと云われたお釈迦様の教えである仏教こそ真の意味で世界を救う教えです。来年は教祖でもあるインドの地に生を受けられたお釈迦様仏暦三千二百年です。

(佐賀新聞 平成11年5月14日投稿掲載された文に加筆したものです。)

辻 雅英

仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拝む心で尊い品を

梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

フリーダイヤル
0120-39-0456

TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号

株式会社 冠婚葬祭こころの会

三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店

有限会社 黃城

小城町270 ☎73-3938・FAX72-3633